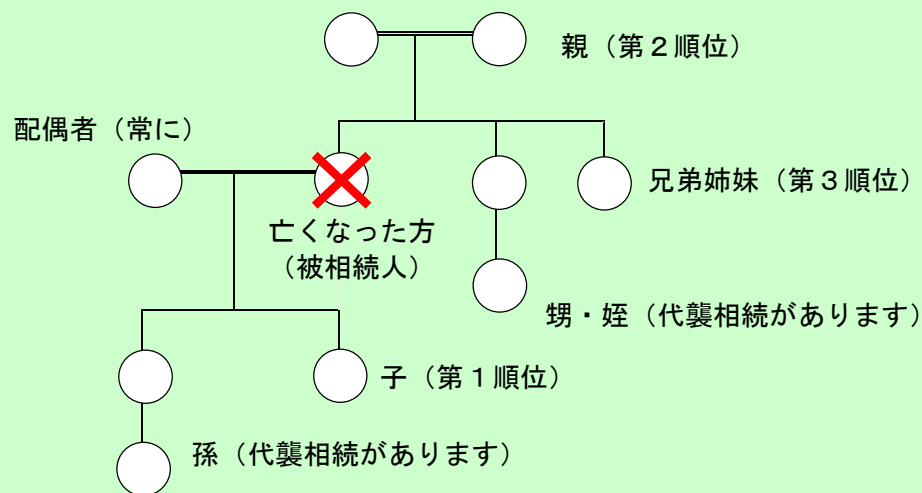




※ 本書面の情報は令和7年4月1日時点のもので、その後の法改正等により制度等が変わっている可能性があります

ご家族が亡くなると、自動的に相続が開始します。相続問題について、よくあるご相談をまとめました。

### Q 1 誰が相続するの？



亡くなった方を「<sup>ひ そぞくにん</sup>被相続人」、相続する方を「相続人」と言います。  
 配偶者（夫・妻）がいれば、配偶者は必ず相続人になります。  
 子がいれば子が、子がいなければ親が、親がいなければ兄弟姉妹が、  
 配偶者とともに相続人になります。  
 子同士、親同士、兄弟姉妹同士は同順位となります。  
 相続発生前に、子が亡くなっている場合、子に子（孫）がいれば、孫が  
 子に代わって相続します（代襲相続）。  
 子が亡くなっている、孫やひ孫・・・（どこまでも繰り下がります）  
 がない場合に、親が相続人になります。  
 兄弟姉妹の中で、被相続人より先に亡くなっている方がいて、その方  
 に子がいれば、その子も代襲相続をしますが、兄弟姉妹の場合は、代襲  
 するのは子（甥・姪）までです。

### Q 2 どんな割合で相続するの？

配偶者はいるが、子どもも親も兄弟姉妹もない → 配偶者が全部  
 配偶者と子 → 配偶者が  $1/2$  ・ 子どもが  $1/2$   
 （子が2人なら、  $1/4$  ずつ）  
 配偶者と親 → 配偶者が  $2/3$ 、親が  $1/3$   
 （両親ともいれば、  $1/6$  ずつ）  
 配偶者と兄弟姉妹 → 配偶者が  $3/4$ 、兄弟姉妹が  $1/4$   
 （兄弟が3人いれば、  $1/12$  ずつ）

### Q 3 借金が残っているけど、それも相続するの？

相続する場合は、現金、預貯金や土地などの財産・権利も、借金などの  
 負債・義務も、どちらも相続することになります。

### Q 4 必ず、相続はしなければいけないの？

相続人は、相続について、次の三つから選ぶことができます。

- 1 単純承認 相続人が、被相続人の権利や義務をすべて受け継ぐ
- 2 相続放棄 相続人が、被相続人の権利も義務も一切受け継がない
- 3 限定承認 相続人が、相続によって得た財産・権利の限度で被相続人の負債・義務を受け継ぐ

### Q 5 いつまでに、3つから選べばいいの？

相続人は、自分のために相続の開始があったことを知ったとき（Q 8  
 参照）から、3ヶ月の熟慮期間内に、単純承認、限定承認又は相続放棄  
 をしなければなりません。

### Q 6 3ヶ月以内に何もしないとどうなるの？

3ヶ月以内に、相続放棄も、限定承認もしない場合、原則として単純  
 承認したものとされますが、3ヶ月を過ぎてもあきらめずに弁護士会に  
 ご相談ください。

### Q 7 気をつけることがありますか？

財産の一部を使ったり、相続の対象となる負債を支払うと、単純承認  
 をしたことになる可能性があります。放棄や承認を決める前に、相続財  
 産を使用したり、債務を支払ったりしないように気をつけてください。  
 例外がありますので、弁護士会にご相談ください。

### Q 8 「自分のために相続の開始があったことを知ったとき」とはいつのこと？

原則として、被相続人が死亡したことを知り、自分が相続人であるこ  
 とを知ったときです。

しかし、財産や負債は何もないと思っていたのに、後に負債があるこ  
 とを知ったときは、そのときが「相続の開始があったことを知ったと  
 き」とされる可能性があります。弁護士会等にご相談ください。

### Q 9 3ヶ月以内に決められないときはどうしたらいいの？

大規模災害では、ご家族が亡くなったことは分かっていても、財産のすべ  
 てを把握することができなかつたり、ある程度把握はできていても、相  
 続するのか、放棄するのかを決められないということが十分に考えら  
 れます。

その場合、3ヶ月の熟慮期間を伸ばすことができます。

### Q 10 3ヶ月の熟慮期間を伸ばすにはどうしたらいいの？

相続が開始したことを知ったときから3ヶ月以内に、家庭裁判所に対  
 して、熟慮期間の伸長の申立をしなければなりません。

### Q 11 期間伸長の申立には、いくらかかるの？ どんな書類が必要なの？

800円分の収入印紙、84円切手3枚と10円切手3枚がかかります。  
 裁判所によって異なる場合がありますので確認してください。

被相続人の住民票除票又は戸籍附票、除籍謄本、改正原戸籍謄本、申  
 立をする相続人の戸籍謄本が必要です。

申し立てる方によって、ほかに書類が必要になる場合があります。  
 書類が集まらない場合、とりあえず申立をして、後で書類を追加するこ  
 ともできます。裁判所にご相談ください。

### Q 12 熟慮期間の延長、相続放棄、限定承認は、どこに申立をすれば 良いの？

被相続人の最後の住所地を管轄する家庭裁判所です（郵送も可）。

＜最後の住所地が静岡市の方＞ → 静岡家庭裁判所  
054-273-8768

＜それ以外＞

沼津・三島・御殿場・裾野の各市・ → 静岡家庭裁判所沼津支部  
駿東郡・伊豆市・伊豆の国市・函南町の方 055-931-6044

富士市・富士宮市の方 → 静岡家庭裁判所富士支部  
0545-52-0386

下田市・賀茂郡の方 → 静岡家庭裁判所下田支部  
0558-22-0161

浜松・磐田・袋井・湖西の各市の方 → 静岡家庭裁判所浜松支部  
053-453-7158

掛川・御前崎（御前崎、白羽及び港を除く）  
・菊川の各市・周智郡（森町）の方 → 静岡家庭裁判所掛川支部  
0537-22-3036

熱海市・伊東市の方 → 静岡家庭裁判所熱海出張所  
0557-81-2989

島田・焼津・藤枝・牧之原・御前崎  
（御前崎、白羽、港）の各市・ → 静岡家庭裁判所島田出張所  
榛原郡（吉田町・川根本町）の方 0547-37-1630

### Q 13 どのくらい熟慮期間を伸ばせるの？

どのくらいの期間伸ばすかは、裁判所が裁量で決めます。場合によっ  
 ては、半年、1年、それ以上の期間伸長が認められる場合もあります。

### Q 14 期間伸長後、注意すること何ですか？

期間の伸長が認められた場合には、その期間内に、放棄、単純承認、  
 限定承認のいずれかを決めなければなりません。その期間内に決められ  
 ないときは、再度、期間を伸長する申立をしてください。忘れると、相  
 続放棄が認められなくなってしまいます。